東京ジャーミイ金曜日のホタバ
2005年9月30日

ラマダーン

親愛なるムスリムの皆様。一年間の、肉体的、精神的なけがれを落とし、人間としての感情に溢れ、悔悟し、主へ向かい合う神秘に満ち、肉体的、精神的な鍛練の月であるラマダーン月をまもなく迎えようとしています。ラマダーン月の価値を高めている重要な事柄について、再確認してみましょう。

まず、ラマダーンは、断食の月です。人の、神への服従が最高点に達するこの月に、人は断食によって忍耐を学びます。貧しい人々の状況を理解し、肉体的な健康を手に入れます。断食明けの食事、断食があける時間、アザーンの声を待つ時に感じる興奮と感動を、他のどの場面で味わうことができるでしょうか。食卓につき、さまざまな恵みを目にする時、ただ神への服従のためのみに時の過ぎるのを待つ時、忍耐という言葉の意味をも理解するのです。

クルアーンは、この月に啓示がなされはじめました。人類を、考えや徳において逸脱することから救い、無知から救い、知識、文明、そしてそれによって永遠の幸福を与えるクルアーンです。真摯な信者は、この月において、いつもよりも多くクルアーンを読み、理解しようと努め、実生活にも応用しようとします。

千の夜よりも尊い、カディールの夜は、この月に存在します。これはある意味、時の中で時を増やし、時のトンネルの中を旅するということを意味します。言い換えるならば、もしこの価値が理解されるのであれば、生涯にさらに生涯を加えるということを意味するのです。

この月のみにおいて行なわれるタラーウィーの礼拝は、ラマダーン月にさらなる価値を加えます。特に、間を空けることなく続けられるこの礼拝は、信者がモスクにいる機会、アッラーの御前で手を組んで頭を垂れる機会を与えるのです。さらに、信者が、この月により実行する喜捨は、貧者にとってさらなる恵み、特別な喜びとなります。事実として、何十万もの人々は、この月にのみ貧者に思いを寄せ、食料や衣類の援助を行なうのです。多くの貧者が、この月にのみ温かいスープを口にし、新しい服を身につけるのです。

１ヶ月間の、肉体的、精神的鍛練のあとには、１年で最も素晴らしい時の一つがやってきます。断食明けの大祭です。大祭のための準備の楽しさを置いておいても、大祭それ自体が特別に素晴らしいものです。大祭は、苦難の多い人生のあとにあの世の生がある、といったような真実を信者に教えます。

何よりも大切なことは、慈しみと許しの月である、ということです。恵みと善に満たされた月なのです。畑の麦の粒のように、何百もの信者が、おそらくこの月に地獄から救われるのです。罪が許されます。天国により近づくのです。

今日のホトバを、クルアーンの次の章で締めくくりたいと思います。「．ラマダーンの月こそは、人類の導きとして、また導きと（正邪の）識別の明証としてクルアーンが下された月である。それであなたがたの中、この月（家に）いる者は、この月中、斎戒しなければならない。病気にかかっている者、または旅路にある者は、後の日に、同じ日数を（斎戒する）。アッラーはあなたがたに易きを求め、困難を求めない。これはあなたがたが定められた期間を全うして、導きに対し、アッラーを讃えるためで、恐らくあなたがたは感謝するであろう。」